



やわらぎ会通信 Vol.58

この冬は遅くまで雪が舞ったので、暖かい春が待ち遠しかったですね。やっとなつと桜の便りも聞こえるようになりました。診療所の裏にある黄金山は桜がとてもきれいです。診療の後、余裕があれば眺めて帰るのも良いかと思えます。



スギ花粉の飛散はピークを過ぎたそうです。花粉症の人はもう少し頑張りましょう。

やわらぎ会はこの春は、特にスタッフの入れ替わりもなく同じメンバーで頑張ります。どうぞよろしくお祈りします。



平成18年度 診療報酬改定について

先日、歯科医師会館において、平成18年度の診療報酬改定の説明会がありました。今回の大きな変更点は2つあります。

1つは医療費の内容のわかる領収証の交付が義務付けされたことです。また明細付領収証もご希望があれば発行することになりました(有料)。これらの情報開示はやわらぎ会ですでに実行しております。

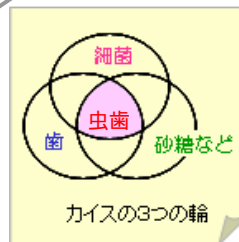
2つには治療を開始するにあたり、全体的な治療計画を立てて、虫歯や歯周病の治療を行った場合、治療後のメンテナンスが2年間、保険で受けられるようになったことです。やわらぎ会では今までも全体的な治療計画を文書で説明し、治療計画を選んでいただいて、治療を行っていましたが、それが保険に導入された形となりました。

今までも多くの方々には、歯や歯ぐきが痛いときにだけ歯医者に行って、痛みが治まれば行かなくなることもあったのではないのでしょうか。それでは歯はどんどん悪くなるばかりです。治療が必要のない健康な状態が一番良いのですが、一度虫歯や歯周病になった歯は放っておいても自然に治ることはありません。悪いところは一度完全に治して定期的にメンテナンスを受けられることで高い確率で虫歯や歯周病の再発を防ぐことができます。

やわらぎ会では保険診療においても自由診療においても、その目的が達成されるよう、体制作りにも励んでおります。できることならば一生自分の歯やお口で食べられるようになっていただきたいと同願っております。 理事長 藤田和也



健康保険証を確認しますので
毎月、月初めにお持ち下さい。



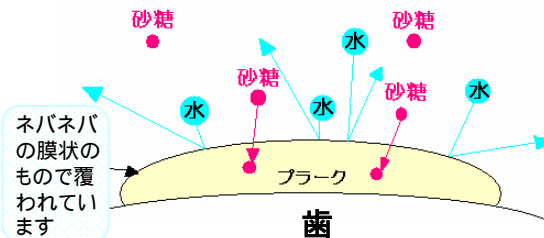
虫歯予防のポイント

細菌の輪、砂糖の輪を小さくすること
歯の質を強くすること

耳より
コーナー



細菌の話



プラークの中の細菌はそのネバネバのなかで、私たちが口にした食べ物の中からお砂糖を酸に変え、虫歯作りをはじめます。ネバネバは水には溶けないので、うがいだけではプラークを取ることはできないのです。

プラークの中の細菌が砂糖を酸にかえる → 歯が溶かされる → 虫歯のはじまり



先日、松山へ藤田先生の講演のアシスタントとして同行したのですが...。松山って近い(?)ですねえ。スーパージェット(高速艇)で約1時間で到着するんですよ。身近に感じちゃいますね。路面電車が走る町並みもどこか広島に似ていますね。この日は四国の暖かな日差しのおかげ、松山といえど...人々もみな穏やかで、お城や史跡が溶け込んだ町並みからは、歴史や文化の空気を肌で感じる事ができ、なんだか居心地のいいところだなあと思いました。



ところで私たちが朝食をとろうとレストランに向かうと、そこに、上下とも黒い服で身をかため、長い金髪を結び上げてかざしを挿し、ベレー帽をかぶった外国人女性? が立っていました。でもよく見ると...えっ!?...肌の色が日本人...骨格が男性...ゲッ!!なんと振り返ったその人はあの華道家の假屋崎省吾(カリヤザキショウゴ)さんだったのです。でもTVのおねえキャラとは違いどこか凛とした感じを受けました。華道家の顔なのでしょう。そんな假屋崎さんとこの歴史と文化の薫るこの組み合わせが妙にしっくりきたのは彼が華道家として本物だからなのでしょうね。(湊本)



同封していますレセプト(保険診療報酬の明細)のコピーは平成18年2月にお受けになられたものです。自由診療のみの方には同封されていません。また患者様からのご意見・ご投稿を受け付けています。手紙・はがき・メールでどうぞ。 メールアドレス yawaragi@fujita.gr.jp

平成18年 3月20日号
編集発行人 藤田 和也
編集者 下野 あゆみ